

三鷹市立高山小学校 令和5年度【 家庭 】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年			
第4学年			
第5学年	<p>○実際の食材は使用しないが、代替の素材を利用した模擬調理を行ったり、家庭に協力していただき、夏季・冬季休業中に宿題として取り組んでもらったりすることで、調理の基本的な知識や技能を学ばせることができた。後半は、試食を伴う調理を行うことができ、調理の工夫により味が変化することを体感したことで、課題の発見、解決に意欲的に取り組む児童が増えた。</p> <p>○ミシンの実習で地域のサポートを利用して実習を行い、個別にサポートしていただいたことでミシンの基本的な操作の技能を向上させることができた。</p> <p>○家庭科ノートやワークシートの活用により知識の定着に効果があった。</p>	<p>○調理の学習において、経験に乏しいため、教え合いや技能の向上が不十分である。</p> <p>○実習後は、自分たちの力で作ることができたことや、家族が喜んでくれたことなど、家庭科の楽しさを感じる感想が多くあった。</p> <p>○裁縫の学習では、興味をもって一生懸命取り組んでいるが、技能の能力差が大きい。</p> <p>○基礎基本的な知識について家庭科ノートを活用してまとめさせ、それぞれの単元の振り返りをさせている。</p>	<p>○長期休業を利用し、各家庭の協力の下で実際の調理を体験させ、学んだことを生かすようにさせる。</p> <p>○調理やミシンの学習では、スクールサポート等を活用し、技能の基礎・基本を定着できるようにする。</p> <p>○タブレットを活用し、裁縫の基礎的な技術の動画を必要に応じて繰り返し視聴できるようにしたり、夏季休業中に実施する調理を写真を交えたスライドにまとめて共有させたりする。</p> <p>○学習や実習の中で技能のこつやポイントなどをキーワードとして言語化させ、家庭科のねらいに沿った資質を身に付けさせる。</p>
第6学年	<p>○調理については、授業内での実習が実施できなかった。事前に丁寧に指導を行い、夏季や冬季など長期休業中に家庭の協力を得て、課題として取り組みました。振り返りを事後学習として授業で行ったことで日常生活に活かす児童が増えた。</p> <p>○調理実習ができなかった分、裁縫の活動を多く取り入れた。作業も速く、順番に工夫をし、日ごとに活用できる作品に仕上げることもできた。</p> <p>○ワークブックやタブレットを活用して学習内容をまとめさせ、発表に意欲をもたせるように指導した。</p> <p>○季節に応じた日本の伝統に触れる調べ学習や活動を取り入れ、関心を深めることができた。</p>	<p>○学んだ知識、技能を生活に生かす場面が不足しており、技能の向上も不十分である。</p> <p>○裁縫の学習では、興味をもって一生懸命取り組んでいるが、技能の能力差が大きい。</p> <p>○学習したことを家庭科ノートにまとめるなど大事なことは押さえているが、課題解決の方法を自ら考えたり、表現を工夫したりする力が弱い。</p>	<p>○調理やミシンの学習では、スクールサポート等を活用したり、実習ではペアで取り組ませたりして技能の基礎・基本を定着できるようにする。</p> <p>○課題発見→課題解決・実践活動→評価・改善のサイクルにより、主体的に課題を解決していく力を伸ばす。</p> <p>○実習や実践学習を行うことにより、知識・技能を身に付けさせるとともに、デジタル教材を活用して、理解を深めていく。</p> <p>また、日本の伝統にも触れ、文化への関心を深め、生活の中の日本に触れさせていく。</p> <p>○家庭科ノート以外にもワークシートや新聞、作品紹介などの発表など取り入れ、まとめの方法を工夫する。</p>